

平成28年度第1回墨田区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日 時： 平成28年7月29日（金）10時から12時

場 所： 墨田区役所13階 131会議室

- 議事内容：
- 1 開 会
 - 2 福祉保健部長あいさつ
 - 3 委嘱及び会長・副会長の選任について
 - 4 議事
 - (1) 『墨田区地域福祉計画』の進捗状況報告について
～平成27年度実績及び平成28年度計画～
 - (2) その他
 - 5 閉 会

【配布資料】

墨田区地域福祉計画（概要版）

墨田区地域福祉計画 取り組み内容 平成27年度実績・平成28年度計画

墨田区地域福祉計画推進協議会委員名簿（平成28年4月1日現在）

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム（チラシの写し）

墨田区地域福祉計画推進協議会委員

氏 名	所 属	出欠席
山 口 稔	関東学院大学教授	出席
市 川 菊 乃	墨田区医師会会長	欠席
大久保 勝 久	東京都向島歯科医師会	出席
青 山 晰 子	墨田区薬剤師会副会長	出席
吉 田 政 美	墨田区民生委員・児童委員協議会会長	出席
荘 司 康 男	墨田区障害者団体連合会会長	出席
野 原 健 治	墨田区私立保育園協会、興望館館長	出席
沼 田 典 之	墨田区老人クラブ連合会会長	出席
石 原 正 人	なりひらホーム施設長	出席
横 山 信 雄	墨田区社会福祉事業団事務局長	出席
栗 田 陽	墨田区社会福祉協議会事務局長	出席
宮 村 柚 衣	墨田区男女共同参画推進委員会	出席
石 鍋 光 子	朗読奉仕「くさぶえ」監査	出席
伊 藤 林	個人ボランティア	出席
井 上 久 子	録音グループかりん会長	出席
齊 藤 宮 子	点訳グループ「きつつき」会長	出席
外 川 浩 子	NPO法人「マイフェイス・マイスタイル」代表	出席
青 木 剛	墨田区福祉保健部長	出席
石 井 秀 和	墨田区子ども・子育て支援担当部長	欠席
北 村 淳 子	墨田区保健衛生担当部長	出席
鹿島田 和 宏	墨田区区民活動推進部長	出席

事務局

厚生課長 三浦 博司
 障害者福祉課長 小板橋 一之
 介護・医療連携調整担当副参事 梅原 和恵
 厚生課 東條、堀井、柴田

その他

傍聴者 1名

議事録

【 1 】 福祉保健部長あいさつ

今回は、16名が前回から引き続き就任いただき、5名の方が新しく委員になりました。2年間、よろしくお願ひします。本日の会議は、会長・副会長を選任した後、地域福祉計画の平成27年度実績及び平成28年度計画の報告がメインです。忌憚のないご意見をお願いいたします。

【 2 】 新任委員の紹介

厚生課長から、大久保委員、青山委員、石原委員、宮村委員、鹿島田委員の5名の新任委員を紹介した。

【 3 】 委嘱及び会長・副会長の選任について

(1) 委員の互選により、野原委員が会長に選出された。

(2) 会長あいさつ

会長

「地域福祉計画推進協議会は重要な会議である。光栄であるとともに責任を持って取り組んでいきたい。」

(3) 野原会長の指名により、山口委員が副会長に選任された。

会長

「第3次墨田区地域福祉計画の策定において、理論的に助言をくださったのが山口委員である。副会長をお願いしたい。」

(4) 副会長あいさつ

副会長

「野原会長をサポートしていきたい。これからの課題や問題に対する解決方法を見つけられる会議にしていきたい。」

【 4 】 議事：『墨田区地域福祉計画』の進捗状況報告について

(1) 墨田区地域福祉計画概要版の説明

・厚生課長から平成27年度及び平成28年度計画の概要について説明。

(2) 平成27年度実績の報告（優先的取組内容の説明）

・介護・医療連携調整担当副参事から「高齢者みまもり相談室の全区展開」を説明。

・社会福祉協議会（栗田委員）から「小地域福祉活動実践地区の拡大促進」「地域福祉活動コーディネーターの発掘・育成」を説明。

・厚生課長から「社会貢献型後見人（市民後見人）の育成」を説明。

(3) 平成28年度計画の報告

・障害者福祉課長から「作業所等経営ネットワーク事業の充実」を説明。

・社会福祉協議会（栗田委員）から「地域福祉活動リーダーの発掘・育成」「ふれあいサロン実施地区の拡大」「小地域福祉活動実践地区の拡大」「CSW（コミュニティ・ソーシャル・ワーカー）によるプラットフォームの形成と地域課題の解決」を説明。

・介護・医療連携調整担当副参事から「高齢者の見守り体制の充実」を説明。

- ・厚生課長から「民生委員・児童委員、社会福祉協議会、区の相談支援機関の連携強化」「成年後見制度の利用支援」「民生委員・児童委員の育成と相談機能の強化」を説明。

(4) 委員からの質問・ご意見

【質問】

- 墨田区全体でふれあいサロンは、どこにどれくらい増えたのか。(委員)

詳細なデータは今持ち合わせていないため、分からない部分はあるが、地域の理解を得て毎年着実に増えている。(委員) 【別紙参照】

ふれあいサロン等は、認知度が低いと思う。また参加者が固定化されていると思う。町会全体を巻き込むような取組をしているのか。(委員)

若干参加者が固定されている部分もあるが、徐々に認知度を深めて、参加者を増やしていつている。また、町会の理解を得て進めていく取組をしている。(委員)

【質問】

- 地域福祉プラットフォームを2か所設置するというが、それが包括支援センターの役割をしていくという考えか。(委員)

社会福祉協議会が考えているプラットフォームと地域福祉計画に定めているプラットフォームは若干ニュアンスが違うと思っている。社会福祉協議会で考えている地域福祉プラットフォームは交流と相談の場と考えている。様々な福祉課題に対する相談ができる場として考えている。今年度は、たちばな商店街の中にキラキラ茶屋を設置した。南部にも今年度中に設置することを予定しているが、空き店舗等がなかなかみつからないため、今後も検討していく。(委員)

【会長より意見】

- 地域福祉計画で考えるプラットフォームについて

プラットフォームとは様々な形態のものがある。

テーマを持った1つの集まりであり、そのテーマは生活に関するものが多い。

例えば食育については、食育というテーマを持って様々な人が集まり、様々なグループが関わっている。

プラットフォームには主に3つの形態がある。

1つ目は、「問題発見プラットフォーム」である。これは、初期段階であり、例えば交流ができる場として地域の祭り等が考えられる。

2つ目は、「連携支援プラットフォーム」である。これは、お互いで助け合うものである。

例えば、社会福祉協議会の小地域福祉活動等がある。

これら2つはインフォーマルなものであり、専門家を置いてもあまり効果がないと思われる。

3つ目は、「問題解決プラットフォーム」である。これは、専門職員が関わっていくフォーマルなプラットフォームである。

地域福祉計画はその全体をみている。

【質問】

○様々な会議があるが整理されていないと思う。また、プラットフォームの考え方が定義されていないのかと思う。その整理が必要であると思う。(委員)

この委員会でプラットフォームに対する考え方を統一していくことが大事だと思う。(委員)
身近に頼れる場所、アドバイスをもらえる場所、それがプラットフォームだと思う。また、これからは、防災に対する備えという視点をもって活動をしていくことが大事だと思う。(委員)

墨田区の幹部職員に対しては、プラットフォームに関する考え方をオーソライズできていると思うが、区役所内でも認識のズレがある場合は、厚生課の方からプラットフォームの考え方について再度周知し、説明していきたい。また、防災に関するプラットフォームができるよう墨田区としても取り組んでいきたい。(委員)

【質問】

○民生委員の数が足りているのか。足りていない場合はどのような方法で増やしていく予定か。(委員)

墨田区の民生委員の定数は209人だが、定足率は88%で23区内ではワースト2であり、足りていない。(委員)

今年度は秋に一斉改選を行う。全町会長・自治会長会議のときに、議題として入れさせていただければ、その場で周知ができる。また、民生委員の足りていない町会自治会長のお宅に訪問し直接お願いする予定である。(厚生課長)

町会加入率が落ちてきている。区役所からも働きかけをするが、町会の方でも地域との関わりについて、考えていただければありがたい。(委員)

【質問】

○小地域福祉活動の中で、自主的に活動をする場合は予算等の措置はあるのか。(委員)
活動支援のため、一定の助成をしている。(委員)

【委員より意見】

○歯科医師会からのお願い。地域の説明会等の機会があれば歯科医師会を呼んでほしい。その時に、災害があったときの食べ物に対する注意や誤嚥の防止策について周知できる。(委員)

【質問】

○プラットフォームを作る際にカテゴリー分けがされている気がする。そのために、何千万円も使って新しい建物を作るのはいかがかと思う。カテゴリー分けをせずに、多世代にわたって関わりを持っていくことが大事と考える。(委員)

社会福祉協議会にあるプラットフォームは分野わけをしておらず、誰でも来られる、相談できる場所である。経費としては、家賃が月数万円と諸経費としていくらか程度しか使用していない。(委員)

【委員より意見】

○若い人の意識が変わってきていると思う。障害者とのコミュニケーションの仕方が変わってきており、意識のズレが見られてきている。今後のことに対して危惧している。

そう思う理由は、私は耳が聞こえないため、声をかける意味で肩に触れることがあるが、相手はそれを暴力ととらえることがある。先日も若者が暴力を振るわれたと思い、スマートフォンを使い裁判に訴えると脅してきた。説明しても認めてくれない。私と同じような悩みを持った人も多い。

(5)まとめ(副会長より)

○27年度の実績について

数値的な成果、質的な成果という事実が書かれているが、評価が難しい。

委員が知りたい、聞きたい情報が足りていない。参加者の具体的な声等の当事者の声を書いてある方が望ましい。

○28年度計画に関して

プラットフォームという言葉の意味を深めていく必要がある。

プラットフォームとは、解決すべきテーマのために人が集まる場所である。必ずしも最初から専門職がいるわけではなく、必要であれば参加する。どちらかといえばゆるい集まりの場であると思う。

墨田区ではどういう意味でこの言葉を使っていくのかは徐々に形づいていくと思うので、協議会等を通して、作っていければいいと思う。

○民生委員について

民生委員1人だけで、地域をみていくことは厳しいため、民生委員以外にも地域のキーパーソンを作っていくことが大事だと思う。

○障害に対する理解について

年代によって意識の違いがあり、難しい面はあるが、必要なことは当事者の声を大切にしていけることである。健常者やこのメンバーだけの意見ではなく、実際に活動している人や障害者の声を大事にしていくことが必要。